

建正寺の文化財

概要

佐谷建正寺は、伝教大師(最澄)が開基したと縁起に伝えられている寺院です。毎年4月の第一日曜日は、十一面観音の御開扉(ごかいちょう)が行われ、地元の方々によるお接待や子ども会育成会の花祭り、奉納相撲があります。地元はもとより県内各地から多くの参拝客が訪れます。

佐谷建正寺がある観音谷の地名は、この像から由来すると考えられており、伝教大師に関する資料が数多く残っています。十一面観音像が安置される観音堂付近には、大日堂、県指定文化財正中二年銘梵字板碑(しょうちゅうにねんめいぼんじいたび)、経塚(きょうづか)群、少し離れたところに伝教大師堂と独鈷水(とっこすい)(影見の井(すがたみのい))があります。地名として百堂、仁王堂という地名が残っています。



木造十一面観音立像(町指定文化財)
台座裏に元禄2(1689)年に
仏師巖瀬(いわせ)又四郎による
修理記録が残っています。
像高122.2cm、クス材。平安
時代 ※文献(4)より転載



木造伝教大師坐像(町指定文化財)
『佐谷山建正寺縁起』によると、自らの姿を井戸に映して作ったものと伝わります。像高60.0cm、ヒノキ材。平安時代 ※文献(4)より転載



木造大日如来坐像(町指定文化財)

正中二年銘梵字板碑(しょうちゅうにねんめいぼんじいたび) (県指定文化財)

鎌倉時代の僧侶大乘坊妙蓮(みょううれん)が両親の供養と自分が犯した罪滅ぼしのために、法華経を一万回あげた記念碑です。正和(しょうわ)3(1314)年から正中(しょうちゅう)2(1325)年までの11年をかけて読まれました。法華経は普通にお経をあげて約9時間かかり、1万回読むには、連続で読んで約10年かかります。箱崎宮で読み始め、若杉山頂の太祖宮(たいそく)で数千部を読み、佐谷の観音堂で読み終えたことを示しています。この石碑は板碑(いたび)という形式で、関東地方に多く見られますが九州では非常に珍しいものです。花崗岩で作られており、平成13(2001)年に保存処理がなされました。



正中二年銘梵字板碑 正中二(1325)年
福岡県指定文化財

佐谷建正寺経筒

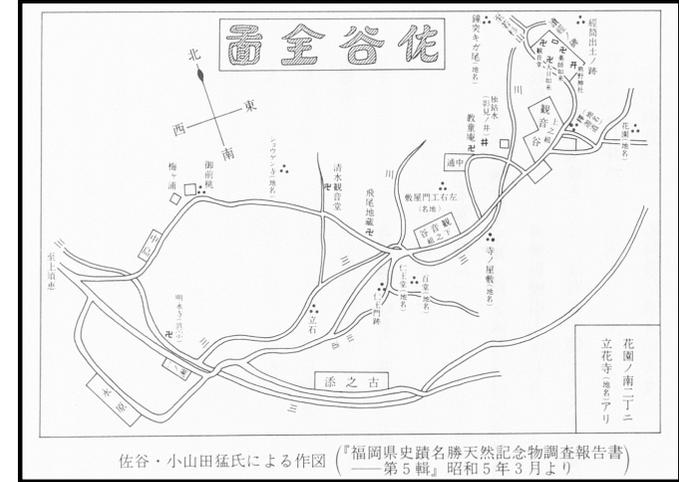
今から約100年前の明治43(1910)年の3月、建正寺の裏山が土砂崩れを起こした時に、偶然3点の経筒(きょうづつ)が見つかり、現在は東京国立博物館の所蔵となっています。現在、観音堂入口の脇に石製の経筒の外函(そとばこ)があります。当時発見されたものかもしれませんが、3点のうち、天治(てんじ)二年銘の経筒には、「宋人 馮榮(そうじん ひょうえい)」という人名が線刻されています。宋人の銘文をもつ経筒は、北部九州から出土する経筒にみられます。ほとんどが墨書で書かれており、線刻のものは、佐谷の



佐谷建正寺経筒
天治二(1125)年
東京国立博物館蔵
※文献(5)より転載

資料のみです。当時、博多は日宋貿易で栄えており、「馮榮」も日宋貿易に携わった商人の一人と思われます。

佐谷の地図(昭和5年当時) ※文献(1)より転載



建正寺の町・県指定文化財一覧

指定	種目	名称	指定年月日	所在地
県	有形(彫刻)	木造十一面観音立像	S29.5.15	佐谷観音谷建正寺観音堂
県	有形(考古)	正中二年銘梵字板碑	S60.5.28	佐谷観音谷建正寺
町	有形(彫刻)	木造大日如来坐像	S53.4.1	佐谷観音谷建正寺大日堂
町	有形(彫刻)	木造十一面観音立像	S53.4.1	佐谷観音谷建正寺観音堂
町	有形(彫刻)	木造菩薩形頭部	S53.4.1	須恵町立歴史民俗資料館
町	有形(彫刻)	木造天部形立像 体部前面残欠	S53.4.1	須恵町立歴史民俗資料館
町	有形(彫刻)	木造天部形(仁王) 面部残欠	S53.4.1	須恵町立歴史民俗資料館
町	有形(彫刻)	木造伝教大師坐像	S53.4.1	大字佐谷字観音谷 伝教大師堂
町	有形(彫刻)	旧観音堂所在仏像 残欠一括	S53.4.1	須恵町立歴史民俗資料館
町	有形(工芸)	佐谷(熊野)神社鐫口	S53.4.1	須恵町立歴史民俗資料館
町	有形(工芸)	建正寺関係鐫口(三)	S53.4.1	須恵町立歴史民俗資料館

木造十一面観音立像

【県指定有形文化財(彫刻)】

※文献(4)より転載

県指定文化財第一号

平安時代の伝教大師(最澄)作と伝えられる観音像です。県指定文化財(彫刻)の第一号です。像高175cmでほぼ等身大の像です。ヒノキ材の寄せ木で作られています。菩薩(ぼさつ)の顔と、頭頂部に如来(にょらい)面一つ、その周りに10の菩薩面が配されています。小振りの鼻と唇で、ふくよかな頬をしており、穏やかで清楚な印象の像です。このような表現は、平安時代の仏師定朝(じょうちょう)が制作した「定朝様」と呼ばれるスタイルです。現在素地が出ていますが、漆箔(しっぽく)の痕跡が見られることから、当初は全身漆箔の像であったようです。

昭和の修復

この観音像はお堂の長櫃(ながびつ)の中に、バラバラの状態状態で保管されていました。昭和29年に東京文化財研究所による修復を受け、現在に至っています。

11面の意味

頭上にある11個の面にはそれぞれ意味があります。

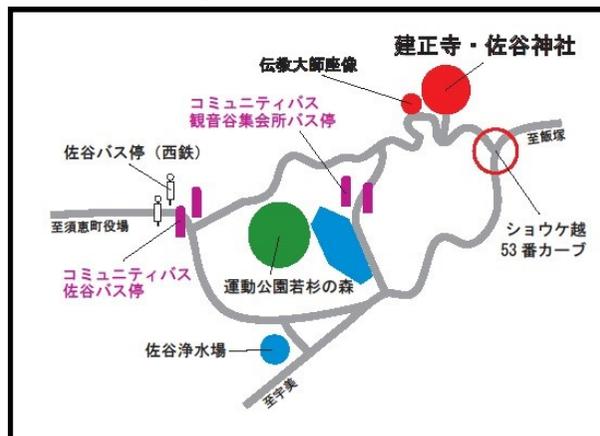
慈悲面(じひめん)...仏像正面側4面 穏やかな表情で、善良な衆生(しゅじょう)に樂を施す、慈悲の表情。

瞋怒面(しんぬめん)...仏像右側3面 邪悪な衆生を戒めて仏道へと向かわせる、憤怒(ふんぬ)の表情。

狗牙上出面(くげじょうしゅつめん)...仏像左側3面 結んだ唇の間から牙を現し、行いの浄らかな衆生を励まして仏道を勧める、讃嘆の表情。

暴悪大笑面(ぼうあくたいしょうめん)...仏像裏側1面 悪への怒りが極まるあまり、悪にまみれた衆生の悪行を大口を開けて笑い滅する、笑顔。

建正寺のアクセスマップ



建正寺へのアクセス

- ・須恵町コミュニティバス 佐谷～上須恵線
「観音谷集会所」下車 徒歩10分
- ・西鉄バス5番「佐谷」下車 徒歩30分

○ 引用参考文献

- (1)竹岡勝也『佐谷建正寺、右谷石泉寺』『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書』第5輯 1930年
- (2)須恵町誌編集委員会『須恵町誌』1983年
- (3)九州歴史資料館『九州の寺社シリーズ8 筑前粕屋・若杉山の仏教美術』1986年
- (4)福岡市博物館『弘法大師帰朝1200年記念特別展 空海と九州のみほとけ』2005年
- (5)九州国立博物館『未来への贈りもの 中国泰山石経と浄土教美術』2007年
- (6)粕屋地区文化財担当者会『糟屋の祈り』2008年

編集・発行 須恵町教育委員会 社会教育課

〒811-2114

福岡県糟屋郡須恵町大字上須恵1180-1

電話 092(934)0030

FAX 092(934)0035

Email: museum@town.sue.fukuoka.jp



文化財愛護
シンボルマーク

ふるさとの文化財
紹介パンフレット①



最澄の祈りを聴く

佐谷建正寺